

科目名称	認知症ケア論
授業コード	BK414
英語名称	Dementia care Theory
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	安川 揚子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	わが国は、2025年に団塊の世代が75歳以上となり、どの国も経験したことのない超高齢社会を迎える。認知症をもつ人は700万人を超えることが予測されている。そのため、認知症をもつ人とその家族が、安心して居心地の良い地域環境で、最期まで暮らし続けられるよう支援していくことが求められる。本科目においては、認知症をもつ人の理解と、その人たちに実践するケアについて思考していくことをめざす。
科目に関連する実務経験と授業への活用	授業は、看護師として認知症ケアに携わった経験のある教員が担当する。
到達目標	<p>この科目は、専門科目の「看護の発展」の一つである。</p> <p>カリキュラム・ポリシーに掲げる「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得する」「地域包括ケアシステムの要として多職種や地域住民と連携・協働できる能力を培う」に対応する科目である。ディプロマ・ポリシーに掲げる「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族および地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力を有している」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力を有している」をめざし、以下に到達目標をあげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各認知症の特徴と関わり方の基本および、多職種連携のあり方について説明することができる。 2. 認知症ケアに特有な倫理的課題を理解し、尊厳を保持するケアを創造することができる。 3. 認知症をもつ人と家族が、安心して最期まで地域で暮らし続けられるための看護職者の役割を考察することができる。
計画・内容	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・認知症ケアの歴史 ・認知症高齢者と家族への看護 (アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症 等) <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅における認知症高齢者と家族介護者に対する看護 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症者と家族への看護 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設における認知症高齢者と家族介護者に対する看護 <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの倫理 <p>第6回</p>

計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者への看護 施設 <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者への看護 在宅 <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとめ
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義はパワーポイントを活用し、配布資料にそって授業をすすめる。 ・適宜、学生と教員間でのディスカッションなどを行う。 ・個人ワーク・グループワークともに積極的な学習態度を求める。 ・授業終了後にはリフレクションペーパーの提出を求める。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の事例（動画・ペーパー資料）をもとに認知症高齢者と家族に必要な看護について考える。老年看護援助論 ・ および、在宅看護援助論 での既習学習を基盤とし、臨地実習などで出会った患者（居宅で暮らす療養者）への看護も参考にしながら学習をすすめる。 ・全体のまとめ：他者の意見を聞き、自己の意見を述べていきながら思考を重ね「認知症をもつ人と家族が、安心して最期まで地域で暮らし続けられるための看護」について自己の意見を確立していく。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習として授業に関連する学習内容について、老年看護学や在宅看護学の教科書、授業で使用した資料、教員が紹介した書籍などを読み知識を整理する。（各回1時間程度）
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学や在宅看護学の教科書を活用する。 ・授業中、教員が紹介する。
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準は、到達目標にそって評価する。 ・出席状況と授業のリフレクションペーパーの内容（30%） ・課題（40%） ・ディスカッションの参加状況（30%）
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの質問については、その場もしくは次回の授業でフィードバックする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアに対して実習で十分に行えなかった、あるいは興味・関心がある、もう少し深く学んでいきたいという学生の受講は大歓迎である。授業においては、主体的な姿勢で臨むとともに積極的に意見を述べることを期待している。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・zoomによる授業・課題学修・個人ワークを組み合わせで行う。 <p>成績評価方法と基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業と同様の基準で評価する。 ・評価方法を変更する場合には事前に丁寧に説明し、学生ので了承を得る。